

ボランティアコーディネーターについて考えてみよう!

病院・大学のボランティアセンターにみるボランティアコーディネーターの役割と可能性

専任・常勤の ボランティアコーディネーターが 病院と地域を近づける

日の出ヶ丘病院・ボランティアルーム
(東京都西多摩郡)

http://www.hinodehp.com/
eメール ohisama-nikoniko@hinodehp.com

ボランティアの力で、地域と病院の壁を無くしたい

緑豊かな自然が残る奥多摩の小高い丘に位置する日の出ヶ丘病院は、高齢者医療を中心とする長期療養型の病院である。同病院には以前から、高齢者への化粧や、お風呂上がりのドライヤーがけなどを行うボランティアが活動していた。

平成12年に西多摩地区で初めてとなるホスピス病棟を開設。「地域の人々が気軽に利用できる病棟にしたい。そのためには、ボランティアの力を借りて、地域と病院との壁を無くすことが必要」と、同病院はボランティアの導入を大々的に開始するとともに、ホスピス病棟でのV活動経験をもつ元女子医大の看護学部教員をVコーディネーターとして配置し、Vルームを開設した。

こうして平成13年4月、専任のVコーディネーターのもと、Vグループ「おひさま会」が誕生し本格的なV活動がスタートした。

患者さんと一緒に遊ぶをモットーに

Vグループ「おひさま会」のV活動は、ホスピス病棟、一般病棟で「入院患者と接する活動」、毎月の誕生会やクリスマス会など「病院の行事」への参加と、大きく分けて2つ。病棟でのV活動については、「患者さんと一緒に遊ぶ」をモットーに、話し



病院もボランティアも意識を 変えることが大切

日の出ヶ丘病院
ボランティアコーディネーター 今井俊子さん

「お日さまのようにいつまでも温かく」との想いで地域の方が名付けてくれた「おひさま会」では現在、40名の病棟Vと、地域内外の10グループと個人8名が行事Vで活動を行っています。V希望者の多くは「特に資格もないし、何をしてもいいかわからない」と不安げに面接に来ますが、私は「患者さんとゆったり遊ぶ気持ちがあれば充分」と申し上げています。

このように、我が国では「病院は医師や看護師が業務を行うもの」と市民は思い込んでいますし、病院もまたそうです。当院でも当初は、ボランティアに何をどう手伝ってもらったらいいかわからないというスタッフがいましたが、私は「ボランティアは病院スタッフの代わりではない」とボランティアにもスタッフにも強く主張してきました。初めは戸惑うスタッフもいましたが、今では「ボランティアだからできること」の大切さを受け止めていただいています。

このような意識変革を行う一方で、Vコーディネーターを「専門職」としてもっと根付かせようと、地域社協と協力し、近隣地域の老人ホームやその他の福祉施設などで活動されているVコーディネーター同士の研究会を発足しました。ゆくゆくはVコーディネーターの養成機関なり認定機関なりが立ち上がるのが理想ですが、まずはその第一歩になればと期待しています。

V活動を推進するVコーディネーターは、様々な機関や団体の中で活動しています。社会福祉協議会などのVセンターのように、活動を希望する人とボランティアを求める人とをつなぐ仲介型の組織もあれば、ボランティアを受け入れる側や送り出す側の機関・団体にもコーディネーターは必要とされ、活動が効果的に行われるよう重要な働きをしています。今回の特集では「病院」と「大学」のVセンターの事例を見ながら、コーディネーターがどのような機能を果たしているか、あるいは、どのようなスキルが求められるのかを考えていきます。



「花まつり」でかっぱれを披露する
行事ボランティア
病院スタッフも入っての研修会
(Vルームでの継続研修)



相手になったり、ベランダに植えた季節の花と一緒に鑑賞するなど、1日3~4名のボランティアが活動を行っている。

また、ボランティアの拠点である「Vルーム」を開放し、絵を描いたり、ボランティアが弾く三味線を聴いたり、患者さんが気軽に訪れ交流できるサロンとしても活用している。

ボランティアのスキルアップをめざして

Vコーディネーターの主な業務として、まずV募集。V希望者には必ず面接を行い、「20歳以上、1週間に1回3時間以上の活動」等の条件をつけている。基礎研修として最初の3ヶ月間のうちに、院内でV活動を行う際の留意点や心構えなどを学んでもらう。さらに、継続研修として、V同士が活動の不安や疑問を出し合い課題解決を図るなど、Vグループのレベルアップを目的とした研修会を毎月1回実施している。

タイムスケジュール

全国の病院でも数少ない専任・常勤Vコーディネーターの業務は多岐にわたる。1日のスケジュールを簡単に紹介する。

8:10	出勤 書類整理	12:30	Vとともに昼食
9:00	業務開始 看護師ミーティング(ホスピス病棟)に参加し、当日のV活動者名を報告 V日誌のチェック(Vの活動状況の把握)	13:00	午後のV来院 (午前のVが当日の状況を引き継ぎ) Vルームをサロンとして開放 来室患者対応
10:00	午前のV来院 Vに患者の状況を伝達	16:00	V活動終了 書類整理
10:30	Vが各病棟で活動開始 各病棟の見回り	17:00	業務終了(予定)

地域とともにまちづくりを進める 大学ボランティアセンター

吉備国際大学ボランティアセンター
(岡山県高梁市)

http://www1.kiui.ac.jp/volunteer/

大学と地域の想いが合致

平成12年4月、吉備国際大学では全国に先駆け、ボランティアに関する専門知識・技術をもつ人材の育成を目的に、社会福祉学部内に「福祉ボランティア学科」を新設。これにあわせて、V活動の実践とコーディネートを体験する場として、Vセンターの設置が求められていた。

一方、豊かな自然と城下町の町並み残る高梁市は、人口約26,000人に対し、吉備国際大学を中心に約3,700人の学生が住む学園都市として、学生と地域との交流を積極的に支援していた。

同大学では、こうした地域性も視野に入れ、大学と地域が協働で福祉のまちづくりを進めることをめざすVセンターの提言書をまとめた。こうして平成13年9月、予想を上回る60名の学生が集まるとともに、大学職員も運営スタッフに加わるなど、福祉V学科の枠を超えた全学的な組織として、同Vセンターが誕生した。

学生と教員が協働でセンター機能を運営

Vコーディネーター業務に関しては、当初、専任職員の配置を模索したが、Vセンターでは学生にコーディネート技術を習得させるうえでも、教員と学生の協働による体制が必要と判断。そこで、学生の中からリーダーを選び、Vセンターの各部門に配置。各担当教員は、学生の自主性を活かしながらサポートするなど、学生と教員が協働でそれぞれの部門を運営している。

現在、学生スタッフは約40名。ここでは、これまでの取り組みを通して、Vセンターの各部門の機能を紹介する。

(1) 調査・研究部門

V・市民活動およびプログラム教材等の研究・調査。昨年は、大学内で活動しているVサークルの活動状況および報告書の作成などを行った。

(2) 啓発・広報部門

Vセンター広報誌の発行、Vプログラムやイベント等の開催にあたってのチラシ・ポスター作成、ホームページの開設等を行っている。

(3) 活動支援部門

大学内でのV相談窓口として、毎週火曜日・木曜日(午後1時~5時)に開設。これまでのコーディネート実績は、V活動希望者(団体)73件、Vニーズ23件、その他相談が24件。なお、夏期などの学生の長期休暇期間は休日となっている。



保育所で子どもたちのレクリエーション
(鳥取西部地震)

被災地で、がれき整理をする学生
(鳥取西部地震)



(4) 人材養成・研修部門

「ボランティアシンポジウム」の実施

Vセンター設立以来、毎年開催。第3回目となる昨年度からは、テーマの企画・開発、関係機関との連絡調整など、学生自身が担っている。昨年は「私たちが創る、ふれあいのまち」をテーマに、地域で実践されている取り組みを発信。なお、今年は「高校生との連携」をテーマに、高校でのV活動事例を発表予定。

「Vセンター学生スタッフ研修」の実施

Vセンター、相談援助、V事例研究など、大学教員による全5回のスキルアップ研修。その他

「市民も対象にしたVコーディネーター研修」、また市民と学生が市内の商店街で行っている「手づくり遊び教室」等の活動支援など。



4つのステップで学生の コーディネート力を高めたい

吉備国際大学ボランティアセンター
副センター長 塚田健二教授

「福祉ボランティア学科」が新設された約半年後、折しも鳥取西部地震が発生。本学においても、学生延べ55名、教員延べ19名が災害復旧Vとして被災地で支援活動を行いました。とりわけ、保育所児童に対する心のケアVは長期間の継続的活動となり、この際の体験が後のVセンター設立時に多くの学生が集った要因の一つとなりました。

本Vセンターでは、専任のVコーディネーターを配置していませんが、大学である以上、「Vニーズのマッチングや相談」等の業務と同時に、次なるステップを視野に入れて学生の指導にあたりたいと考えてきました。

つまり、第1ステップをマッチング・相談業務とするならば、第2ステップは、学生が自分で課題を発見し、企画から課題解決に向けた「プログラム開発」を行える力を養う。第3ステップは、自分が開発し実践した活動が地域にどのような効果をもたらしたのかを検証し、論文にまとめる。いわば「サービランニング」ですが、ゆくゆくは、単位取得を含めたV活動と教育・研究活動の連動も必要です。

幸いにも高梁市は、学生と地域住民との交流を通じて、豊かで活力あるまちづくりを推進しています。一方、シンポジウムや各種Vプログラムの取り組みが示すとおり、本VセンターにおいてもV活動の実践の場として地域の資源を活用するという点で想いは一致しています。

その意味で、最終ステップは、学生が実践で得た知識・スキルを実際に地域で活かしていくこと。そのためには、地域のV・市民活動グループ、商工会議所ならびに商店街、民生委員・児童委員、社協などとの連携を深め、より広いフィールドで学生の力を高めたいと考えています。

がんばれボランティアコーディネーター! ~豊かな地域社会をつくりだすために~

Vコーディネーターは、ボランティア・市民活動の活性化になくてはならない重要な存在となっています。多様な場で活躍しているVコーディネーターですが、ここであらためて、Vコーディネーターとして何をめざし、どのような機能を果たしていくべきかについて考えます。

Vコーディネーターの目標

1市民の参加支援を進めていますか?

多くの市民にV活動に参加してもらうことが大切です。しかし、ただ参加させればよいというわけではなく、V自身が充実感を得られるように、V活動によって地域社会がより豊かなものとなるように、市民の自発的な参加を支援することがVコーディネーターの基本的な使命です。

2市民として成熟するための支援をしていますか?

V活動を通して、する側も求める側も、個人として成長し、新たな人間関係や社会関係が自然に培われていきます。そのためには、自発性や、活動先とのよりよい出会い、活動の有効な振り返りが必要です。そうした環境を整え、人々が市民として成熟することを支援することが、Vコーディネーターに求められています。

Vコーディネーターの役割と視点

1ボランティアのニーズを大切にしていますか?

Vコーディネーターは、ボランティアのニーズをしっかりと受け止め、その充足に向けて配慮し、魅力的な活動プログラムを開発する視点が求められます。また、悩みや課題を持っているボランティアには、活動への参加意欲を高め、課題の解決に向けて整理したり励ましたりなど、相談相手となることも重要です。

2ボランティアを求める人の課題解決に向けた支援を大切にしていますか?

ボランティアを求めている人は、何らかの課題を抱え援助を求めている存在です。ボランティアを紹介するということだけではなく、課題の把握と解決に向けての方針を立て、ボランティアとともに社会資源も活用し、活動の経過を見ていく専門的な援助が必要です。

3ボランティアとボランティアを求める人は、ともに課題解決をめざす人たちです。

ボランティアとボランティアを求める人は、課題解決という同じ目的をもって活動しています。「してあげる」「してもらう」「使う」「使われる」関係ではなく、目的を同じくする「仲間」として課題解決に参加していくという理解が基本です。

タイプ別のコーディネート機能

コーディネート機能は、受け入れ型・送り出し型・仲介型の三つに大きく分類でき、それぞれに特徴的な役割があります。ただし、所属する組織によってタイプが固定しているわけではなく、状況に応じてそれぞれの機能を果たしているのです。

1受け入れ型:所属する組織の立場でサービス向上を

ボランティアを受け入れ、支援するというコーディネートのタイプです。Vコーディネーターは、基本的には所属する施設・団体の利用者の側に立ちますが、ボランティア側のニーズの充足にも配慮することが必要です。

また、「ボランティアと職員」「ボランティアとボランティア(グループ)」をつなぐ役割もあります。ボランティアが組織の一員として活動するために、研修やフォローアップも重要です。

2送り出し型:事前準備とフォローアップがポイント

組織の構成メンバーを、ボランティアとして活動の場に送り出すコーディネートのタイプです。

[紹介事例のポイント]

日の出ヶ丘病院では、職員の業務補助として活動するのではなく、ボランティアとしての固有の活動領域を重視して、ボランティア自身、病院職員、患者(利用者)に対しそれぞれ働きかけがされています。また、病院が地域社会に向けて開かれ、根付き、地域住民が自然な形で参加できるように環境づくりがめざされています。

吉備国際大学ボランティアセンターは、大学内にとどまらず地域においても重要な社会資源として、地域の関係機関・団体と協働した多様な活動が展開されています。また、教育機関として、ボランティア活動及びVコーディネート業務を通して、学生の教育や、将来的な地域における人材養成をめざしていることも特徴です。

コーディネートのポイントの一つは、活動に送り出す前に、構成員が“やる気”と“活動先の理解”の2点において充分準備できるよう支援することです。活動希望者や潜在層を掘り起こし、意欲を高めるための多様な情報や企画が必要です。もう一つのポイントは、活動先のプログラムを、活動先のコーディネーターとともに企画することです。活動後のフォローアップも重要であり、活動を通じて市民として成熟することにもつながります。

3仲介型:活動希望者と依頼者双方への支援が重要

V活動を希望する人(団体)と活動を求める人(団体)との間に位置し、それぞれのニーズに対応し、両者をつなぐことが役割です。

活動希望者および依頼者の双方に活動を紹介することが重点となり、活動の開始や継続のために、様々な調整を行うことが主な役割となります。そのためには、情報提供やニーズ把握の他、V希望者による主体的なグループづくりや民主的な運営、V受け入れ体制づくりへの支援といった役割も求められてきます。

Vコーディネートについて、詳しく学びたい方のために・・・

ボランティアコーディネータースキルアップシリーズ(全8巻)
『ボランティアコーディネート論』



本書は、Vコーディネーターが専門職として必要とされる基礎的な知識・技術などを体系的に身につけることを目的に発行されました。研修の場にとどまらず、自主的な学習やグループでの勉強会、各種学校での専門養成の場でも活用いただけるよう配慮しています。他の7巻とともに、ぜひご活用ください。
・規格/B5判 138頁
・発行/社会福祉法人 全国社会福祉協議会 (03-3581-9511)(2001年11月発行)
・定価/本体900円(税別)